

2010年 年頭所感

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。新年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

先ず最初に、昨年我が国経済を振り返りますと、一昨年秋のリーマンショック以降の未曾有の世界的な景気落ち込みに対して、政府の積極的な景気対策の効果等から年度はじめには一部で回復の兆しも現れました。しかし一方において、失業率は戦後最高水準を更新するなど雇用情勢は深刻化しており、景気回復の実感には程遠い状況でありました。

9月には、民主党政権の誕生により、マニフェストに基づく新たな政権運営がスタートし、補正予算の公共事業の一部執行停止や来年度予算の事業仕分けなどこれまでにない動きも見られましたが、同時に、自民政権時代の内外の諸課題も山積しており、それらの対応に追われているうちに、デフレ状況が一段と進み、さらに11月下旬のドバイショックに端を発して急激な円高・株安になるなど景気の先行きが懸念される状況となっています。現在は、新政権の生みの苦しみの期間と申しますか、本来であればもう少し長い眼で見る必要があるかと思いますが、現下の厳しい経済情勢からしてそんな時間的余裕がないのも事実であります。

私ども食品スーパーマーケット業界にとりまして、今年は大変厳しい年でありました。一昨年秋のリーマンショック以降、GMSが売り上げ不振に陥る中で、食品スーパー各社は、まだまだ相対的には健闘しておりましたが、新年度上半期に入り、明らかに売上の伸びが低下いたしました。これは少子高齢化が進み全体のパイが縮小する中で、所得や雇用情勢の悪化等から消費者が生活防衛意識を高め、消費の抑制に走ったためであり、その影響が日常の食生活をあずかる我々食品スーパーマーケットにも出できたということでもあります。その結果、各社とも売上確保のためかつてない激しい低価格競争を余儀なくされました。販促の強化はもとより、低価格PBの積極展開、低価格新業態投入など低価格競争一色といった状況になりました。

こうした大変難しい時期に、私も昨年7月にスーパーマーケット協会会長に就任し、清水前会長から引継ぎをいただきましたが、最近店周りをしておりますも消費環境の厳しさを肌で感じますし、各社のトップや幹部の方のお話を伺っても皆さん一様にかつて経験したことのない厳しい状況であるとおっしゃっております。

新しい年であります2010年も景気の急速な回復を予想することは難しい情勢であります。国の財政状況から見ても経済政策・景気対策に多くを期待することも難しい状況にあります。むしろデフレの一層の進行により小売業界にとっては、さらに厳しい経営環境が続くと覚悟をしておく必要があると思います。その結果、価格競争もますます厳しさを増すものと予想されますし、利益の確保が相当難しい局面も予想されます。

そうした中で、私ども食品スーパーマーケット業界にとりましては、今年が正念場の年と言えます。熾烈な価格競争は当分続くと考えられますが、一方において、低価格もそろそろ岩盤に突き当たってきているのも事実であります。マスコミ各社は相変わらず低価格競争は良いことだ、安く買う消費者は賢明だということを盛んに喧伝いたしております。確かに価格は大変重要な要素であり、低価格ニーズは強いことは事実であります、消費者のニーズは価格だけではないことも事実であります。

そろそろ我々もデフレを助長し、景気回復を遅らせ、自らの首をしめるだけの行き過ぎた価格競争から脱却し、消費者に対して、真の食生活の豊かさを提供し、多様な食生活のニーズにお応えすることにもっともっと知恵と工夫を凝らすべきだと思います。

そうした意味で、今年、協会会員各社の皆さんとともに、我々食品スーパーマーケットは今何をすべきなのか、我々食品スーパーマーケットが果たすべき社会的責任とは何かということについて、原点に帰って、改めて真摯に問い直さなくてはならない時期に来ていると考えます。

以上色々所感を述べさせていただきました。新しい年は厳しい環境が予想されますが、同時に、低価格戦略を含めてこれまでのやり方が最早通用しない、新しい考え方、新しいビジネスモデルを打ち出さなければならない時代に入っております。そういう意味ではパラダイムの大きな転換が求められる年だともいえます。前向きに捉えれば、会員各社にとりまして、大きなチャンス、大きな転機になる年であります。難しい局面ではありますが、お互い切磋琢磨しつつも、互いに協力し合ってこの難局を乗り切ってまいりましょう。

本年もどうぞご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

以上